

平成 24 年度 大栄経理学院

第 133 回日商簿記検定試験 模範解答

2 級

商 業 簿 記

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	当 座 預 金	1, 584, 000	売 上	2, 000, 000
	手 形 売 却 損	16, 000		
	売 掛 金	400, 000		
2	未 収 金	1, 125, 000	売 買 目 的 有 価 証 券	1, 017, 000
			有 価 証 券 売 却 益	108, 000
3	当 座 預 金	250, 000	未 払 金	250, 000
4	当 座 預 金	125, 000, 000	資 本 金	62, 500, 000
			資 本 準 備 金	62, 500, 000
	創 立 費	2, 010, 000	現 金	2, 010, 000
5	不 渡 手 形	510, 500	当 座 預 金	510, 500
	保 証 債 務	5, 000	保 証 債 務 取 崩 益	5, 000

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

第 2 問(20 点)

仕 訳 日 計 表				
平成 24 年 11 月 1 日				
88				
借 方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸 方
1, 186, 000		現 金		906, 000
60, 000	－	受 取 手 形	－	250, 000
966, 000		売 掛 金		1, 026, 000
170, 000	省	未 収 金	省	230, 000
100, 000		仮 払 金		
550, 000		備 品		500, 000
375, 000		備品減価償却累計額		
		支 払 手 形		130, 000
738, 000	略	買 掛 金	略	765, 000
		借 入 金		80, 000
16, 000		売 上		966, 000
		受 取 手 数 料		76, 000
765, 000		仕 入		8, 000
56, 000		租 税 公 課		
	－	( 固 定 資 産 売 却 益 )	－	45, 000
4, 982, 000				4, 982, 000

## &lt; 総勘定元帳 &gt;

## 現金

1

平成24年		摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
11	1	前月繰越	✓	186,000		借	186,000
	"	仕訳日計表	88	1,186,000		"	1,372,000
	"	仕訳日計表	88		906,000	"	466,000

## 買掛金

15

平成X2年		摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
11	1	前月繰越	✓		752,000	借	752,000
	"	仕訳日計表	88	738,000		"	14,000
	"	仕訳日計表	88		765,000	"	779,000

## &lt; 仕入先元帳 &gt;

## 山口商店

1

平成X2年		摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
11	1	前月繰越	—		268,000	貸	268,000
	"	出金伝票	省	110,000		"	158,000
	"	振替伝票	略	150,000		"	8,000
	"	仕入伝票	—		255,000	"	263,000

## 広島商店

2

平成X2年		摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
11	1	前月繰越	—		255,000	貸	255,000
	"	振替伝票	省	250,000		"	5,000
	"	仕入伝票	略		397,000	"	402,000
	"	"	—	8,000		"	394,000

## 岡山商店

3

平成X2年		摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
11	1	前月繰越	—		229,000	貸	229,000
	"	出金伝票	省	90,000		"	139,000
	"	振替伝票	略	130,000		"	9,000
	"	仕入伝票	—		113,000	"	122,000

1つにつき2点 合計20点

(配点は、当学院の予想です)

## 第 3 問 (20 点)

(1)

損 益 計 算 書

平成○1 年 4 月 1 日から平成○2 年 3 月 31 日まで

I	売	上	高		(	<div>1,820,000</div>	)							
II	売	上	原	価										
1	期	首	商	品	棚	卸	高	(	<div>240,000</div>	)				
2	当	期	商	品	仕	入	高	(	<div>1,121,000</div>	)				
				計				(	<div>1,361,000</div>	)				
3	期	末	商	品	棚	卸	高	(	<div>281,000</div>	)	(	<div>1,080,000</div>	)	
	売	上	総	利	益			(	<div>740,000</div>	)				
III	販	売	費	及	び	一	般	管	理	費				
1	営	業	費					(	<div>469,500</div>	)				
2	貸	倒	引	当	金	繰	入	(	<div>4,900</div>	)				
3	減	価	償	却	費			(	<div>93,600</div>	)	(	<div>568,000</div>	)	
	営	業	利	益				(	<div>172,000</div>	)				
IV	営	業	外	収	益									
1	受	取	地	代				(	<div>14,000</div>	)				
V	営	業	外	費	用									
1	支	払	利	息				(	<div>80,000</div>	)				
	税	引	前	当	期	純	利	益	(	<div>106,000</div>	)			
	法	人	税	・	住	民	税	・	事	業	税	(	<div>30,000</div>	)
	当	期	純	利	益			(	<div>76,000</div>	)				

(2)

本店の利益	支店の利益
98,900	10,900

(3)

793,900
---------

 1 つにつき 2 点

(2) は各 1 点

(3) は 2 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

## 工 業 簿 記

## 第 4 問 (20 点)

工 場 の 仕 訳				
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	500,000	本 社	500,000
(2)	賃 金 ・ 給 料	800,000	本 社	800,000
(3)	仕 掛 品	250,000	本 社	250,000
(4)	製 造 間 接 費	400,000	本 社	400,000
(5)	本 社	3,500,000	仕 掛 品	3,500,000

本 社 の 仕 訳				
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	工 場	500,000	買 掛 金	500,000
(2)	工 場	800,000	現 金	800,000
(3)	工 場	250,000	当 座 預 金	250,000
(4)	工 場	400,000	機械減価償却累計額	400,000
(5)	製 品	3,500,000	工 場	3,500,000

仕訳 1 組につき 2 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

## 第 5 問 (20 点)

## 問 1

仕 掛 品		(単位 : 円)	
前 月 繰 越 (	1,030,000 )	製 品 (	4,830,000 )
直 接 材 料 費 (	900,000 )	次 月 繰 越 (	1,060,000 )
直 接 労 務 費 (	1,800,000 )		
製 造 間 接 費 (	2,160,000 )		
	( 5,890,000 )		( 5,890,000 )

## 問 2

売 上 原 価 = 5,439,000 円

1 つにつき 3 点

問 2 は 2 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

## 【2 級解説】

## 第 1 問

$$2. \text{ 平均単価 : } \frac{① ¥680 \times 700 \text{株} + ② ¥650 \times 800 \text{株} + ③ ¥720 \times 500 \text{株}}{700 \text{株} + 800 \text{株} + 500 \text{株}} = ④ ¥678$$

売買目的有価証券 : ④ ¥678 × 1,500 株 = ¥1,017,000

3. 振り出した小切手が相手先に渡されていないため、減少させた当座預金を増加させます。また、費用の未払いや備品等の資産に対する未払いは「未払金」勘定に計上します。

4. 会社設立時における株式の発行なので、株式発行諸費用は登記費用とともに「創立費」勘定で処理します。創立費は原則として費用処理しますが、繰延資産として処理することも認められています。

発行株式数 : 10,000 株 × 1/4 = 2,500 株

資本金組入額 : ⑤ ¥50,000 × 2,500 株 × 1/2 = ¥62,500,000 (最低限度額 = 払込金額の 1/2)

5. 不渡りとなり買い戻した手形金額に、償還請求費用や延滞利息を含めた金額を「不渡手形」勘定に計上します。また、手形裏書時に保証債務の計上を行っているため、これを取り消す処理を行います。

手形裏書時の仕訳

( 買 掛 金 )	500,000	( 受 取 手 形 )	500,000
( 保 証 債 務 費 用 )	5,000	( 保 証 債 務 )	5,000

## 第 2 問

各伝票から仕訳を行うと以下のとおりです。

## 入金伝票

( 現 金 )	1,186,000	( 借 入 金 )	80,000
		( 売 掛 金 ( 富 山 ) )	250,000
		( 未 収 金 )	230,000
		( 売 掛 金 ( 新 潟 ) )	550,000
		( 受 取 手 数 料 )	76,000 *

\* 仕訳日計表の受取手数料貸方金額より

## 出金伝票

( 買 掛 金 ( 岡 山 ) )	90,000 * <sup>1</sup>	( 現 金 )	906,000
( 備 品 )	550,000		
( 買 掛 金 ( 山 口 ) )	110,000		
( 仮 払 金 )	100,000 * <sup>2</sup>		
( 租 税 公 課 )	56,000		

\*<sup>1</sup> 岡山商店の仕入先元帳残高欄差額より

\*<sup>2</sup> 仕訳日計表の仮払金借方金額より

## 仕入伝票

( 仕 入 )	765,000	( 買 掛 金 ( 山 口 ) )	255,000
		( 買 掛 金 ( 広 島 ) )	397,000 * <sup>1</sup>
		( 買 掛 金 ( 岡 山 ) )	113,000 * <sup>2</sup>
( 買 掛 金 ( 広 島 ) )	8,000	( 仕 入 )	8,000

\*<sup>1</sup> 広島商店の仕入先元帳 仕入伝票より

\*<sup>2</sup> 岡山商店の仕入先元帳 仕入伝票より

## 売上伝票

( 売 掛 金 ( 新 潟 ) )	579,000	( 売	上 )	966,000
( 売 掛 金 ( 富 山 ) )	387,000			
( 売	上 )	16,000	( 売 掛 金 ( 富 山 ) )	16,000

## 振替伝票

( 受 取 手 形 )	60,000	( 売 掛 金 ( 新 潟 ) )	60,000
( 買 掛 金 ( 広 島 ) )	250,000	( 受 取 手 形 )	250,000 *1
( 買 掛 金 ( 岡 山 ) )	130,000	( 支 払 手 形 )	130,000 *2
( 買 掛 金 ( 山 口 ) )	150,000	( 売 掛 金 ( 富 山 ) )	150,000 *3
( 備品減価償却累計額 )	375,000	( 備 品 )	500,000
( 未 収 金 )	170,000	( 固 定 資 産 売 却 益 )	45,000 *4

\*1 仕訳日計表の受取手形貸方金額より

\*2 仕訳日計表の支払手形貸方金額より

\*3 山口商店の仕入先元帳 振替伝票より

## 第3問

本支店合併財務諸表の作成は、①未達事項の整理、②決算整理、③合併整理の順で行います。

## ① 未達事項の整理

本店側または支店側において、未達により未処理となっているものを処理します。また、未達整理後は「本店」勘定と「支店」勘定、「本店より仕入」勘定と「支店へ売上」勘定の一致を確認します。

1. ( 現 金 )	8,000	( 支 店 )	8,000
2. ( 本 店 か ら 仕 入 )	10,800	( 本 店 )	10,800
2. ( 営 業 費 )	6,000	( 本 店 )	6,000
4. ( 支 店 )	15,000	( 売 掛 金 )	15,000

支 店		本 店	
前T/B	776,000	前T/B	766,200
4.	15,000	2.	10,800
		3.	6,000
一致 783,000			

支店へ売上		本店から仕入	
前T/B	240,000	前T/B	229,200
		1.	10,800
一致 240,000			

## ② 決算整理事項等

## &lt; 支店側 &gt;

## 1. 売上原価の算定について

( 仕 入 )	98,000 <sup>*1</sup>	( 繰 越 商 品 )	98,000
( 繰 越 商 品 )	106,800 <sup>*2</sup>	( 仕 入 )	106,800

\*1 期首商品棚卸高：整理前試算表の「繰越商品」勘定より

\*2 期末商品棚卸高：¥96,000＋未達¥10,800＝¥106,800

## 2. 貸倒引当金の設定について

( 貸 倒 引 当 金 繰 入 )	800 *	( 貸 倒 引 当 金 )	800
-------------------	-------	---------------	-----

\*  $\text{¥}100,000 \times 2\% - \text{¥}1,200 = \text{¥}800$

## 3. 減価償却について

( 減 価 償 却 費 )	37,600	( 建物減価償却累計額 )	12,000 <sup>*1</sup>
		( 備品減価償却累計額 )	25,600 <sup>*2</sup>

\*1  $(\text{¥}300,000 - \text{¥}0) \div 25 \text{ 年} = \text{¥}12,000$

\*2  $(\text{¥}200,000 - \text{¥}72,000) \times 20\% = \text{¥}25,600$

## 4. 営業費について

( 前 払 営 業 費 )	7,000	( 営 業 費 )	7,000
---------------	-------	-----------	-------

( 支 店 の ) 損 益			
仕 入	174,200	売 上	600,000
本 店 か ら 仕 入	240,000		
営 業 費	136,500		
貸 倒 引 当 金 繰 入	800		
減 価 償 却 費	37,600		
支店の利益 10,900			

## ※ 支店利益の振り替え

支店は、損益勘定で利益を計算した後、これを本店勘定に振り替えます。これにより支店での処理は終了し支店の各帳簿が締め切られます。

( 損 益 )	10,900	( 本 店 )	10,900
---------	--------	---------	--------

## &lt; 本店側 &gt;

## 1. 売上原価の算定について

( 仕 入 )	150,000 <sup>*1</sup>	( 繰 越 商 品 )	150,000
( 繰 越 商 品 )	186,000 <sup>*2</sup>	( 仕 入 )	186,000

\*1 期首商品棚卸高：整理前試算表の「繰越商品」勘定より

\*2 期末商品棚卸高

## 2. 貸倒引当金の設定について

( 貸 倒 引 当 金 繰 入 )	4,100 *	( 貸 倒 引 当 金 )	4,100
-------------------	---------	---------------	-------

\*  $(\text{¥}160,000 + \text{¥}160,000 - \text{¥}15,000) \times 2\% - \text{¥}2,000 = \text{¥}4,100$

## 3. 減価償却について

( 減 価 償 却 費 )	56,000	( 建物減価償却累計額 )	16,000 <sup>*1</sup>
		( 備品減価償却累計額 )	40,000 <sup>*2</sup>

\*1  $(\text{¥}400,000 - \text{¥}0) \div 25 \text{ 年} = \text{¥}16,000$

\*2  $(\text{¥}250,000 - \text{¥}50,000) \times 20\% = \text{¥}40,000$

## 4～6. 営業費等について

( 前 払 営 業 費 )	12,000	( 営 業 費 )	12,000
( 支 払 利 息 )	8,000	( 未 払 利 息 )	8,000
( 受 取 地 代 )	6,000	( 前 受 地 代 )	6,000

## ( 本 店 の ) 損 益

仕 入	902,000	売 上	1,220,000
営 業 費	333,000	支 店 へ 売 上	240,000
貸 倒 引 当 金 繰 入	4,100	受 取 地 代	14,000
減 価 償 却 費	56,000		
支 払 利 息	80,000		
本店の利益 98,900			

## ※ 支店利益の受け入れと法人税の計上

本店は、支店から利益の報告を受けると、これを損益勘定で受け入れます。これにより、支店勘定の残高は ¥793,900(=¥783,000+¥10,900) となり、これが次月繰越額となります。

( 支 店 )	10,900	( 損 益 )	10,900
( 法 人 税 等 )	30,000	( 未 払 法 人 税 等 )	30,000

## ③ 合併整理

財務諸表作成は、決算整理後の本支店の各勘定科目を単純合算し、これに合併整理を行って作成します。合併整理とは、合併財務諸表には表示しないものを消去するための処理です。

## 1. 照合勘定の相殺消去

( 本 店 )	783,000	( 支 店 )	783,000
---------	---------	---------	---------

## 2. 内部取引の相殺消去

( 支 店 へ 売 上 )	240,000	( 本 店 か ら 仕 入 )	240,000
---------------	---------	-----------------	---------

## 3. 内部利益の消去

## (1) 期首商品棚卸高

支店の期首商品に含まれる内部利益：繰延内部利益勘定より ¥8,000

(P/L) 期首商品棚卸高：本店 ¥150,000 + 支店 ¥98,000 - 内部利益 ¥8,000 = ¥240,000

## (2) 期末商品帳簿棚卸高

支店の期末商品に含まれる内部利益： $(¥60,000 + \text{未達商品 } ¥10,800) \times \frac{0.2}{1.2} = ¥11,800$

(P/L) 期末商品帳簿棚卸高：本店 ¥186,000 + 支店 ¥106,800 - 内部利益 ¥11,800 = ¥281,000

## 第 5 問

問 1 各勘定に記入される内容は以下のとおりです。2 月における勘定記入である点に注意しましょう。

仕 掛 品		製 品	
月初仕掛品 2/1 時点で未完成	当月完成 2 月中に完成した 製品	月初製品 2/1 時点で未販売	当月販売(売上原価) 2 月中に販売した 製品
当月製造費用 2 月中に投入した 製造原価	月末仕掛品 2/28 時点で未完成	当月完成 2 月中に完成した 製品	月末製品 2/28 時点で未販売

仕 掛 品		製 品	
# 102 : 1,030,000	# 102 : 1,470,000	# 101 : 1,990,000	# 101 : 1,990,000
# 102 : 440,000	# 201 : 1,960,000	# 102 : 1,470,000	# 102 : 1,470,000
# 201 : 1,960,000	# 202 : 1,400,000	# 201 : 1,960,000	# 201 : 1,960,000
# 202 : 1,400,000	# 203 : 1,060,000	# 202 : 1,400,000	# 202 : 1,400,000
# 203 : 1,060,000			

※ 当月製造費用は、2 月中に新たに発生した直接材料費・直接労務費・製造間接費の金額を集計します。

直接材料費：200,000 円＋300,000 円＋400,000 円＝900,000 円

直接労務費：200,000 円＋800,000 円＋500,000 円＋300,000 円＝1,800,000 円

製造間接費：240,000 円＋960,000 円＋600,000 円＋360,000 円＝2,160,000 円(予定配賦額)

問 2 製造間接費の実際発生額は、製造間接費勘定の借方金額より 2,179,000 円と判明します。予定配賦額は上記の 2,160,000 円ですので、配賦差異が 19,000 円(借方(不利)差異)発生しています。この配賦差異は売上原価に賦課(加算)されるため、2 月の売上原価は以下のとおりとなります。

2 月の売上原価：1,990,000 円＋1,470,000 円＋1,960,000 円＋配賦差異 19,000 円＝5,439,000 円